

「うさぎ追いし-山極勝三郎物語-」映画撮影レポート

柳澤英明（9組）

現在、映画『ウサギ追いし-山極勝三郎物語-』の制作が上田市で進められており、先日(3/26)信州大学繊維学部講堂で撮影(ロケ)が行われました。第四回日本病理学総会での山極勝三郎博士(扮する俳優遠藤憲一)の「人工癌腫の発生に就いて」の発表シーンと第九回国際癌会議で晩年の山極博士の長女梅子(扮する女優高橋恵子)にスエーデンのノーベル財団フォルケ・ヘンシェン博士がノーベル賞を授与できなかったことに対して謝罪する場面の撮影が行われ、約100名の医学者・生理学者のエキストラとして出演して来ましたので、山極博士の偉業と映画プロデューサー永井正夫氏(62期)の映画化への企画意図について報告させていただきます。

山極博士は、兎の耳にコールドタールを繰り返し塗り、世界で初めて化学物質で刺激を与えることにより人工的に癌を発生させた偉大な成果を残され、今日の癌治療に大いに役立っていることについては、一度は耳にされていることと存じます。

山極博士は、上田変則中学(現上田高校)を卒業し、東京帝国大学医学部に入学するも、卒業後、医者にはならないで基礎医学の病理学を研究するため助手として東京帝大に残りました。医学部病理学教室の助教授時代にドイツに留学、世界的な病理学者ウイルヒョウ博士の下で病理学を修めています。その後、肺結核に冒されながらも癌の研究に没頭し、胃癌発生論の発表、専門誌「癌」の創刊などの成果も残されておられます。

今回の山極博士の映画化を企画されたのは、塩田出身の映画プロデューサー永井氏で、同氏が10年前、がん研究会有明病院に大腸がん治療で入院した際、病院史の中で山極博士の名前を見つけました。同病院を運営するがん研究会は1908年の創立で山極博士が創立メンバーの一人であったこと、そして同郷の上田市の出身であることを知り“世界的に偉大ながん研究の基礎を創った研究者なのに世の中に知られていない”と映画化を決断されました。

この種の映画は娯楽映画でないため興行収入が全く予測出来ない状況下で、映画化に踏み切られた永井氏の郷土愛に満ち溢れた英断に私も感動し、エキストラ募集協力など映画化に協力させていただいております。

なお、今回の映画化への協力については、山極博士、小河滋次郎博士(山極博士の幼友達で日本で初めて民生委員制度を創った刑法学者)などが中心となって創設された上田郷友会(創設から130年続いており現在、上田部会では郷土史など学んでいる。会員約250名)が、この映画を多くの日本人、世界の人々に見てもらい、上田出身の世界で初めて人工癌を創生し、日本初のノーベル賞受賞を逃した山極博士の偉業を世界に知らしめるべく、映画の成功を願い応援しております。

つきましては、上田高校関東同窓会の皆様にも是非、サポーターになって頂き、この映画を成功させるため絶大なるご支援、ご協力お願い致します。

(2016年3月30日)

【写真1】上田ロケで(右から永井正夫プロデューサー、近藤明男監督、筆者)



【写真2】出演者の記者会見(真ん中が山極博士役の遠藤憲一氏)

